

令和 3 年度 豊郷中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

温かな人間関係のもと、豊かな心を持ち、自ら学び主体的に生きようとする生徒の育成

- | | |
|--|--|
| <p>(1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心身ともに健康で気力あふれる生徒 ・ 自主的に学び創造性にとむ生徒 ・ 思いやりがあり心豊かな生徒 ・ 勤労と責任を重んじ実践力のある生徒 | <p>(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心身を鍛える生徒 ・ 自主的に学ぶ生徒 ・ 思いやりのある生徒 ・ 最後までやり抜く生徒 |
|--|--|

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 一人一人の生徒が希望をもって生き生きと活動している学校
- 保護者・地域から信頼され活力のある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

本校のスローガン

「笑顔と感動のあふれる学校 豊郷中 ～通じ合う心 粘り強い努力～」

「豊郷地域学校園教育ビジョン」（とよさとの学び）

- 「豊かな郷の生き生きとした子どもたち」

〔重点課題〕

- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現するため、分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣の定着などにより学力向上を図る。
- ・ すべての教育活動を通して心の教育を推進し、豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・ 元気アップ教育の推進とともに、健康や体力への意識を高め健やかな心と体の育成と活力ある生活の確立を図る。
- ・ 家庭・地域との連携・協力を深め活気あふれる学校づくりに努める。
- ・ 各種教育活動の精選化とともにミドルリーダーを核とした校内組織の活性化・重点化により教職員の働き方改革を推進する

◇ 頑張る学校プロジェクト名 「感動プロジェクト」

- (1) 特色ある学校づくりとして目指すもの

温かな人間関係のもと豊かな心を持ち、自ら学び主体的に生きようとする生徒を育む学校づくり

- (2) 育てたい資質・能力

ア 自分で課題を見つけ、主体的に取り組み、話し合い等により考えを深め、よりよく問題を解決する能力

イ 規範意識を持ち、思いやりの心や感動する心などの豊かな人間性や社会性をもつこと

- (3) 具体的取組

ア 授業において、互いを認め合い励まし合う学習活動の中で、教材やＩＣＴを効果的に活用しながら、生徒の能動的・主体的学びを引き出す工夫をする。

イ 学級活動や学校行事・生徒会活動の充実、部活動の推進、タイム着席の実施等を通して、自ら考え判断し行動する場をより多く設け、主体的態度や自立・自律の態度を育成し、生徒のもつ多様な資質・能力の向上を図る。

ウ 宮っ子チャレンジウィーク、地域の文化財や自然（瓦塚古墳・北山古墳等）を守る活動、地域行事への参加、各種ボランティア活動等を充実させ、自己の在り方を見つめ、よりよく生きようとする態度や地域を愛する心を育てる。

エ 教科指導、道徳、学級活動、生徒会活動、学校行事等横断的な視点での関連付けを図り、生徒の学びを深める。

オ 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、小中一貫教育や地域学校園の取組を進める。

カ 緑化・諸掲示・美術・音楽・言語・生活習慣等の教育環境を、教科学習・生徒会活動・学級活動等の活動を通して整備・充実を図る。

キ 質の高い文化・芸術に触れる機会や様々な人々との交流活動等を通し豊かな感性や思いやりの心を養う。

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法、学校教育法などの基盤的法律の理念の下、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、中学校学習指導要領等に示された規準及び栃木県教育行政基本方針、宇都宮市学校教育の推進計画等の示すところに従い、公教育の自覚のもと全教職員の理解と協力により、本校教育目標の達成を目指して教育課程を編成する。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する。
- (3) 道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う。道徳科の時間だけでなく、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行う。また、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実する。指導内容が、生徒の日常生活に生かされるように、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意する。
- (4) 体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努める。食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科、及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努める。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎的能力が培われるよう配慮する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】・ミドルリーダーを核とした組織の活性化とともに、校内業務の精選化・効率化を図る。
○地域と連携した諸活動の推進
- 【学 習 指 導】○「とよさとの学び」に基づいた教員の授業力向上の推進並びに家庭・地域と連携した学力向上
- 【児 童 生 徒 指 導】○認め励ます教育の一層の推進による豊かな心や社会性をもった生徒の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 肯定的回答85%以上	① 学習課題の提示（「はっきり」）やふり返り（「すっきり」）の設定を工夫し、生徒が主体的に学ぶ授業の実践に努める。 ② 生徒一人一人が自分の考えを持つ（「じっくり」）ことによって、発見のある授業づくりに努める。 ③ 生徒の対話を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす指導の充実を図る。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ92.6%・95.0%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 宇都宮モデル「はっきり」「じっくり」「すっきり」に基づいた、わかる授業づくりを推進する。主体的な学びを実現するために、タブレットの効果的な活用を工夫していく。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 肯定的回答85%以上	① 「特別の教科 道徳」の充実のために、道徳科の授業づくりとして、「考え、議論する道徳」を目指し、授業改善を図る。 ② 豊かな感性を育む機会の充実のため、朝の学習時の読書活動「朝読」を取り入れるとともに、学校図書館司書と連携した読書活動に努める。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ92.3%・97.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 道徳の授業を中心に、各教科・学校行事などすべての教育活動を通して、思いやりの心の育成を図る。「やさしさ」を認める機会を意図的に設定することで、生徒の気付きを育む。

A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 肯定的回答 85%以上	○① 時間を守る、身の回りの整理整頓や状況に応じた礼儀・態度など基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、登下校時の交通マナーの徹底に取り組む。 ② タイム着席や語先後礼式あいさつ、黙動等の本校独自の取組を、教職員が率先垂範の姿勢で行動し、生徒が自立的に取り組めるよう、指導の充実を図る。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ 92.5%・97.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 自ら判断し、責任をもって実行できるような機会を意図的に設定し、自己指導能力の育成を図る。また、自他ともに成長できる集団の雰囲気づくりを行う。
A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 肯定的回答 85%以上	○① 校内外でのあいさつをさらに充実したものにするとともに、地域協議会や小学校と連携して、地域学校園全体であいさつ運動をさらに展開していく。 ② 校内のあいさつ運動や、小中合同のあいさつ運動に、教師が率先垂範で取り組んでいく。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ 96.7%・92.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 教職員が、学校での諸活動において率先して節度あるあいさつをすることで、生徒にあいさつの意義について考える契機とし、意識の向上を図る。家庭内での協力も得られるように保護者へ呼びかけていく。
A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 「挑戦する」活動、「がまんして」やり続ける活動、「あきらめず」努力する活動を意図的に設定し「笑顔と感動のあふれる学校」を目指す。 ② 生徒のよさや努力を認め、意欲を高める指導の充実を図る。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ 86.1%・87.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 生徒は成功体験を重ねたり自信をもったりすることで、粘り強く取り組むことができると考えられる。スモールステップでの達成感を得る機会を数多く作り、認め賞賛しながら生徒に自信をもたせる。また、様々な活動において「挑戦」「我慢」「諦めない」というテーマ設定を行い、生徒の意欲を喚起する。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」 肯定的回答 85%以上	○① 健康診断・新体力テスト等の結果を参考にして、体位・体力の調和と均整がとれるよう各運動領域での補強運動の工夫をする。 ② 給食の時間における食に関する指導の充実のため、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化について、教科等において関連を図りながら指導する。	B	【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ 94.9%・97.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 各種健康診断やテストなどの結果をもとに、本校生徒の現状を把握するとともに、小中で連携しながら9か年を見通した取り組みを考えていく。また「保健だより」や「給食だより」等を利用し、保護者の理解・協力が得られるように努める。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 (教職員)「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 肯定的回答 85%以上	① 「宮・未来キャリア教育」の充実を図り、生徒一人一人が将来の夢や目標を持つことができるよう、学級活動等の指導を行う。 ② 地域の行事や清掃活動・ボランティア活動など、地域の方々と世代を超えて協働することにより、社会に参画する力を育む。	B	【達成状況】 教職員の肯定回答率は、87.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 キャリアパスポートを有効活用し、小中連携を図った9か年を見通したキャリア教育を推進する。地域との交流が難しい現状ではあるが、地域や社会との関わりを意識させる働きかけを工夫し、生徒の意識の向上を図る。

A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、英語の授業やＡＬＴとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 肯定的回答８５％以上	① 英語科教員の共通理解のもと、英語の授業では、１年時からすべて英語での指示等を行い、積極的に英語を使う態度を養う。 ② 授業以外でもＡＬＴの活用を工夫し、日常的に英語に親しむ機会を作る。	【達成状況】 教職員の肯定回答率は、８７．５％で数値目標に達した。生徒は ８４．４％であり、数値目標を若干下回った。 【次年度の方針】 英語科の授業を中心に、ウォーミングアップやペア学習などで、英語でコミュニケーションをとる機会を多く設定し、英語に楽しく慣れさせる。英語が身近に感じられるような掲示物の工夫やＡＬＴの効果的な活用を工夫する。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、宇都宮の良さを知っている」 肯定的回答８５％以上	① 宇都宮学を始めとした教科領域での授業を通して、郷土を資料や題材とした授業の展開を進める。 ○② 古墳愛護会や市文化課とともに活動することを通して、生徒の意識を地域や社会に向けさせた広い視野を育てる。また、掲示物を工夫するなどして意識の高揚を図る。	【達成状況】 教職員の肯定回答率は昨年度より大幅に上回ったが、７７．５％で数値目標を下回った。生徒は ８５．８％であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 「宇都宮学」が導入され、生徒の意識が向上した。学習方法を工夫して蓄積していくことで、充実を図る。地域とのかかわりが難しいなか、新たな取り組みも模索していく。
A 10 生徒は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 (生徒)「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している」 肯定的回答８５％以上	① 情報社会に対応した情報活用能力を育成するため、「情報モラル教育」の充実を図り、「宇都宮市情報モラル教育年間指導計画」に基づく、発達段階に合わせた体系的・継続的指導を行う。 ② 教職員の研修を充実し、さまざまな教科で、タブレット型パソコンを活用した授業を実践する。	【達成状況】 生徒の肯定回答率は、昨年度を大幅に上回り、８７．３％で数値目標に達した 【次年度の方針】 １人１台のタブレットの活用が、生徒の意識向上につながったと思われる。職員が、定期的な研修や情報を共有することで、活用技術の向上を図り、授業でのＩＣＴ活用を充実する。また、司書と連携をとって、学校図書館の活用を充実していく。
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 (地域住民)「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 肯定的回答８５％以上	① 道徳や学級活動を中心として、感謝や思いやりについて考える活動を工夫し、心や態度の育成を図る ② 生徒会専門委員会や吹奏楽部の高齢者施設訪問活動を継続的に実施する。また、社会情勢に応じた交流の仕方を工夫する。	【達成状況】 地域住民の肯定回答率は、１００％であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 道徳や学級活動を中心としたあらゆる学校教育活動とおして、思いやりや感謝について考える機会を意図的に設定する。また、実践の場としての交流の機会をもつことが難しい状況ではあるが、工夫して模索する。
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」 肯定的回答８５％以上	① 生徒会活動を通して、リサイクル活動を継続的に実践することで、「持続可能な社会」への意識を高める。 ② 教科指導のなかで、意図的に持続可能な社会に関わる題材を取り上げることで、生徒・教師共に自分たちの問題として考え実践しようとする態度を育む。	【達成状況】 生徒の肯定回答率は、８４．４％で数値目標を若干下回った。教職員は、８５．０％で数値目標に達した。生徒・教職員とも昨年度を大幅に上回った。 【次年度の方針】 生徒会活動の中で SDGs を取り上げたことで、生徒の意識が飛躍的に向上した。次年度も生徒会活動を中心に計画的に取り組み、生徒の意識の向上を図る。また、普段行っていることの中でも、持続可能な社会につながっていることが多いことに、気付かせる働きかけを行う。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 (教職員)「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」 肯定的回答85%以上	① 生徒一人一人の実情を把握し、特別な支援を必要とする生徒に対して、その実態に応じた支援ができるよう、特別支援教育コーディネーターを核とした連携を密にする。 ② 特別な支援を必要とする生徒についてのケース会議等を持ち、具体的な支援の形を職員、保護者で共有する。	B 【達成状況】 教職員の肯定回答率は、92.5%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 週1回開催する教育相談部会で、情報の共有を行い、特別支援教育コーディネーターを中心に、専門職であるSCやMSを活用するなど、組織的な支援体制を整え、個別な対応を充実させる。学校生活アンケートやスタンダードダイアリーを活用し、生徒の心の変化を見逃さず、早期に適切な支援をしていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 (生徒・保護者)「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 肯定的回答85%以上	① 生徒一人一人に丁寧に向き合うとともに、いじめの定期的なアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。 ② 生徒・保護者との連携を密にし、信頼関係を築きながら早期発見・早期対応を図る。また、学校の取り組みなどの情報を発信して、保護者の理解を深める。	B 【達成状況】 生徒の肯定回答率は、93.8%であり数値目標に達した。保護者の肯定回答率は、72.0%で数値目標を下回ってしまった。 【次年度の方針】 生徒・教職員の肯定回答率は、数値目標を大きく上回っており、アンケートやスタンダードダイアリーによる生徒動向の把握や教育相談部会・生徒指導部会による組織的な取り組みが、十分効果をあげていると思われる。学校の取り組みの情報発信を工夫し、保護者の理解や協力を得ていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「先生方は、一人一人を大切に、生徒がともに認め合うクラスをつくっている」 肯定的回答85%以上	① 新たな不登校を生まないため、「挨拶」「励まし」「賞賛」など、身近な言葉かけを大切に学級経営を行う。 ② どの生徒も活躍できる場を意図的に設定するなど、自己存在感のある学校を目指す。	B 【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ91.3%・95.0%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 楽しくて居場所のある学校や学級をつくっていくことが大切であり、学校や学年で組織的に学級経営を充実させていく。生徒一人一人が活躍できる機会を意図的に設定し、自己存在感や自己有用感が育まれるような働きかけを行う。
	A16 教職員は、外国児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 (教職員)「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」 肯定的回答85%以上	① 生徒が外国籍の場合だけでなく、保護者が外国籍などの場合も含めた支援を行えるように、実態の把握に努める。 ② その生徒、家庭が必要としている支援を適切に行い、将来的には自立していける方向性を持たせる。	B 【達成状況】 教職員の肯定回答率は、92.5%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 保護者と連携をとって実態を把握し、生徒や保護者に必要な支援が適切に行えるように、組織的に取り組む。必要であれば、外部機関と連携を取り、支援を充実させる。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 (生徒・教職員)「私は今の学校が好きです」 肯定的回答85%以上	① 心の通じ合いや粘り強い努力を大切にして、感動のある学校づくりを推進する。 ② 学校行事では、生徒の笑顔があふれるように、生徒の自発的・主体的活動を積極的に取り入れ指導に当たる。	B 【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ86.8%・92.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 学校行事や生徒会活動を中心に、生徒の自発的・主体的な活動を取り入れるとともに、一人一人が活躍する機会を意図的に設定し、「認め・賞賛」することで、充実感や達成感を感じさせる。

A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 (生徒・教職員)「先生方は、授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 肯定的回答85%以上	○① 授業において、互いに認め合い励まし合う学習の場を作るよう努力し、毎時間の目標と評価を関連づけた指導を徹底する。 ② 「分かる楽しい授業」のために体験的活動を取り入れた授業展開を工夫し、生徒一人一人の学習意欲の向上を図り、難易度の高い課題への取り組みを行う。タブレットの効果的な利用を工夫する。	B 【達成状況】 生徒・教職員の肯定回答率は、それぞれ92.1%・97.5%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 授業において、互いを認め合い励まし合う学習活動の中で、教材やICTを効果的に活用しながら、生徒の能動的・主体的学びを引き出す工夫をする。教科部会や研修を定期的に行い、教職員の授業力向上や教職員間の連携を深める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員)「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 肯定的回答85%以上	① 学校の組織力を強化し、生徒への指導・支援の充実を図るため、多様な専門スタッフとの連携を密にする。 ② チームとしての学校の力を最大限に生かせるようにするため、スタッフの専門性を発揮できる場を設定するなど、管理職のマネジメントのもと、体制を整える。	B 【達成状況】 教職員の肯定回答率は、95.0%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 肯定回答率が、昨年度から大幅に上昇した。教科部会や学年会議を定期的を設定することで、情報の共有ができていたと思われる。学校経営方針の共有化を図り、職員一人一人の参画意識を高めるとともに、管理職や主任が中心となり、教職員の能力特性が発揮できるような校内体制を構築する。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員)「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 肯定的回答85%以上	① 時間外勤務の削減に向けて、業務の精選・見直しなど、校務分掌の刷新を図る。 ② 「宇都宮市部活動方針」に基づき、部活動の適正な運営に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定回答率は、72.5%であり、数値目標を大きく下回った。 【次年度の方針】 新型コロナウイルスの影響での各種行事の変更や1人1台タブレットの導入など、教職員の負担が増えてしまったと思われる。校務分掌や行事内容の見直しをするとともに、主務者に頼るのではなく、連携をとることで、業務の均等化を図る。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 (教職員)「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 肯定的回答85%以上	○① 計画的に運営委員会、各部会を実施し、小学校との連絡・調整を図り、社会情勢に合わせた様々な合同行事を工夫する。 ○② 相互の乗入授業等を行い、相互理解に努めるとともに、情報交換の場として活用する。	B 【達成状況】 教職員の肯定回答率は、82.5%であり、数値目標を下回った。 【次年度の方針】 生徒の肯定回答率も53.3%と大幅に下がってしまった。小中あいさつ運動など目に見える活動だけでなく、9か年を通して育成するために、小中で連携をとっていることを、授業でも伝えていく必要がある。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 (生徒)「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 肯定的回答85%以上	① 社会情勢を考慮しながら、さまざまな体験学習に地域の方々の協力を得ることで、地域の教育力を生かす取組の充実を図る。 ② 「食農体験」やキャリア教育における「職業人に聞く」「宮っ子チャレンジ」など、地域、企業の方々の協力を得ることで、特色ある教育活動を展開する。	B 【達成状況】 生徒の肯定回答率は、83.0%であり、昨年度より上昇はしたが、数値目標を下回った。 【次年度の方針】 新型コロナウイルスの影響で、地域との交流が難しい状況ではあるが、地域協議会と連携し、可能な範囲で地域と交流できる場を工夫して設定する。地域の教育力に対して、情報収集を充実する。

本校の特色・課題等	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 (教職員・保護者・地域住民)「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 肯定的回答 85%以上	① 家庭への積極的な情報発信と相互理解を推進するため、学校の取組や生徒の様子の情報発信に、各種通知や学校 HP の利用、保護者会や三者懇談の機会を活用する。 ② 魅力ある学校づくり地域協議会との連携を強化し、保護者や地域住民の意見を的確に学校運営に反映させる。	B	【達成状況】 教職員・地域住民の肯定回答率は、それぞれ 87.5%・100% で数値目標に達したが、保護者は、80.1% で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 新型コロナウイルスの影響で、保護者が学校に来る機会がほとんどなく、学校の様子がわかりにくかったと思われる。各種たよりやHP・一斉メール等を充実させて情報発信をし、保護者や地域の理解や協力が得られるように努める。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 (教職員・保護者)「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 肯定的回答 85%以上	① 月 1 回の安全点検や日常的な点検を強化し、危機管理意識の高揚を図るとともに、修繕等が必要な場合は速やかに対応し、安全が保たれるようにする。 ② 学校の新しい生活様式を意識した行動がとれるように、日常生活の中で感染症対策を徹底する。	B	【達成状況】 教職員・保護者の肯定回答率は、それぞれ 95.0%・86.9% であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 日常的な施設の点検や巡視を行い、危険箇所の有無を確認し、事故の未然防止に努める。早急な対応を心掛け、学校業務員・機動班・学校管理課との連携を密にする。感染症対策については、日常生活の一部として実施できるように、習慣化していく。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 (教職員)「生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」 肯定的回答 85%以上	① タブレット型パソコンをはじめとする ICT 機器の活用により、主体的・対話的で深い学びを促進し、生徒の情報活用能力の育成を図る。 ② 学校図書館の学習センター・情報センターとしての機能を持たせるため、図書館司書と連携し、必要な図書を充実させる。	B	【達成状況】 教職員の肯定回答率は、100% であり、昨年度を大幅に上回り数値目標に達した。 【次年度の方針】 新しく導入された 1 人 1 台タブレットの活用が、効果的に運用された。さらに効果的に活用できるよう、職員の研修を充実していく。生徒の実情に合わせ、定期的に必要なとなる機器や図書の選定を行う。
	B1 ミドルリーダーを核とした校内組織の活性化・重点化により教職員の働き方改革を推進する。 【数値指標】 (教職員)「学校は各主任・主事を核として、校内組織の活性化が図られている」 肯定的回答 85%以上	① ミドルリーダーを校内組織の中核に据え、若手教員との意思疎通を円滑にし、校内組織の活性化を図る。 ② 校内組織の中で、OJT を通して、若手職員の育成を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定回答率は、95.0% で数値目標に達した。 【次年度の方針】 まずは何でも言い合える雰囲気職場環境の整備を大切にする。校内組織の活性化のためには、中核を担うミドルリーダーの役割が大切であることを確認し、ミドルリーダーを核とした校内体制を構築する。
	B2 教員は、授業実践を通して授業力向上を目指し、積極的に授業公開をしている。 【数値指標】 (教職員)「教員は、授業実践を通して授業力向上を目指し、積極的に授業公開をしている」 肯定的回答 85%以上	① それぞれの教員が、授業力の向上を目指し、年 1 回以上は公開授業を積極的に行う。また、授業を見やすい環境づくりに努める。 ② 参観者からの授業に関するコメントを参考に、さらなる授業改善に臨む。	B	【達成状況】 教職員の肯定回答率は昨年度を大きく上回り、100% で数値目標に達した。 【次年度の方針】 職員も授業を公開することの効果は、確認できている。教科部会や授業公開を通して、教職員間でお互いに授業力向上を目指し、生徒にとって分かりやすい授業が展開できるように努める。

B3 教員は、授業の工夫・改善を図るため、同僚の授業を積極的に参観している。 【数値指標】 (教職員)「教員は、授業の工夫・改善を図るため、同僚の授業を積極的に参観している」 肯定的回答85%以上	① 異なる教科も含めて、同僚の授業を参観することで、授業改善の方策を探る。 ② ポイントを絞った見方をするなど、参観するための工夫を図る。また、授業を参観するときには、批判的な見方はせず、授業者が前向きになれるようなコメント等を与える。	B 【達成状況】 教職員の肯定回答率は昨年度を大きく上回り、87.5%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 授業を参観する時間を確保するのは、難しい現状ではある。今年度は、1単位時間の中で参観してほしい時間を指定することで、肯定的回答率が上昇したと考えられる。専門教科外の授業からも学ぶことは多く、参観する方法については、引き続き工夫していく。
--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《昨年との比較》

- ・設問9から設問12まで大きくポイントが向上している。設問9の「宇都宮の良さ」については、今年度より総合的な学習の時間に「宇都宮学」を全学年で取り入れ、学習してきた成果であると考ええる。また、設問10、25の「ICT機器や図書等の活用、整備」等については、GIGAスクール構想が前倒しで実施されたことにより、1人1台のタブレットが配備され、教員、生徒が積極的に活用している結果である。設問12の「持続可能な社会への関心」については、授業等で取り上げるだけでなく、委員会活動において年間通して、それぞれの委員会で取り組むことができるSDGsを考え、実践してきたことにより、大きく向上したと思われる。
- ・教職員や生徒の回答に比べ、保護者の肯定的回答が大きく低いものが多い。まだまだ学校での取り組みや状況を保護者にうまく伝えられていないことが考えられる。次年度は感染症対策を十分した上で、学校の取り組みや生徒の状況を丁寧に伝えていきたい。

《市全体との比較》

- ・ほとんどの対象・設問において市の平均と同等であった。「持続可能な社会」についての関心は、今年度の学校全体での取り組みにより、教職員、生徒ともに市平均を大幅に上回った。また、教職員は生徒に対して生活の様子や行動について肯定的に評価している。今後は、生徒のできていることを認め励ますことを通して、自己肯定感を高めていきたい。
- ・地域と連携した取り組みや特色ある教育活動など、学校外との連携に課題が多い。感染症への対応をしながらも、地域との連携や特色ある活動をより進めなければいけない。
- ・保護者は、学力向上やいじめへの対応など、学校の取り組みが十分でないと感じている。学校においては、授業力向上のための取り組みやいじめの早期発見、早期解決のために学年、学校全体で取り組んできたが、十分と保護者に伝わっていないことが分かった。今後より丁寧な対応や保護者への説明を進めていきたい。

7 学校関係者評価

- ・登校時のあいさつができており、すがすがしく感じる。学校や家庭でのあいさつがしっかりできているためであろう。これからも、学校・家庭・地域で生徒を育てていけるとよい。
- ・授業の様子を見せてもらい、服装や態度がしっかりしていることがわかる。普段からの学校での指導や生徒の取組が表れている。今後も続けてほしい。
- ・なかなか学校を訪れることはできないが、学校だよりやホームページから、学校行事などの様子がよくわかり、生徒の生き生きとした姿が感じられる。こういう状況の中だからこそ、情報の発信を充実してもらえるとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・総合的な学習の時間における「宇都宮学」、1人1台タブレットの導入、SDGsを取り入れた生徒会活動など、今年度新たに導入されたことや今年度の課題をもとに力を入れたことによる影響は、生徒の姿とともにしっかりとアンケート結果となって表れている。次年度も、重点的に取り組むべきことを把握して取り組みことで、生徒の良さを伸ばしていく。
 - ・コロナ禍を始め予測のつかない状況の中では、学校の取り組みを保護者や地域の方に知ってもらうことが難しい。充実した学校経営を行うためには、学校・家庭・地域の連携が必要であり、情報発信や可能な範囲での取り組みの工夫が必要である。
- 学力向上や生活習慣の定着は、中学校3年間だけでは育まれない。地域学校園の小中学校で、児童生徒の良さや課題を共有し、可能な範囲で連携を充実させていく。

